

未来への翼

2025
Summer



表紙

八戸小唄流し踊りに感性デザイン学部が出場

7月18日（金）に開催された七夕祭りで、八戸小唄流し踊りに感性デザイン学部の学生が出場しました。今年で3年目となります。「地域文化論」の講義で非常勤講師の泉彩菜先生からご指導を受け、一か月にわたり練習してきた学生たち。本番も見事に踊り切りました！

H.I.T.活動報告

学長通信





📌 大会結果報告

動力研究部



動力研究部X



DOUKEN_HIT

6月21日に開催された「Honda エコ マイレージ チャレンジ2025 第16回もてぎ大会」に、2チームが出場（one flat、STD）。グループIII（大学・高専・専門学校）でone flatが優勝し、STDが3位に入賞しました！ドライバー、マネージャーを中心にそれぞれが役割を果たした結果です。10月の全国大会での活躍も期待されます。



卓球部（男女）



卓球部X

5月の春季リーグ戦で男女ともにインカレ出場権を獲得。7月に三重県・四日市市で行われた「第94回全日本大学総合卓球選手権大会（団体の部）」に出場しました。他大学との力の差を感じる結果となりましたが、次の試合に向けて奮闘中です。また、6月には福島県・南相馬市で行われた「第77回東北学生卓球選手権大会」に出場。男子シングルスで佐藤 颯太（システム情報工学コース2年／岩手・専修大学北上高校出身）さんが優勝したほか、男女とも好成績を収めました。

バレーボール部



バレーボール部X



HIGHKINDOM_VOLLEYBALL

4月～5月にかけて行われた春季リーグ戦で、同部史上初の準優勝。個人では種市耕己さん（工学科 電気電子通信工学コース4年／弘前工業高校出身）が優秀選手賞、土岐祐渡（感性デザイン学部感性デザイン学科4年／五所川原工業高校出身）がブロック賞1位に輝きました。シード権を獲得して挑んだ6月の東日本インカレでは初戦敗退となりましたが、9月には天皇杯東北ブロックラウンドを控えるなど、今後も活躍が期待されます。



ソフトテニス部



KOUJAL.SOFTTENNIS

5月に行われた「第45回東北学生ソフトテニス春季選手権大会」で、男女ともにダブルスでベスト16に進出。男子は6年ぶり・女子は2年ぶりとなるインカレ出場権を自力で獲得しました。9月のインカレ本番に向け、各種大会に出場し経験を積み、準備を進めています。目標である「全国大会での勝利！」をめざし、練習に励んでいます。

強化部インタビューをホームページに掲載しています！

本学では全国や東北地区などの主要な大会等で活躍(または躍進)する部活動や大学のブランディング・広報への貢献を担う部活動に対して「強化部」と認定し、課外活動全体のさらなる活性化を目的として支援する取り組みを行っています。各部のキャプテンにインタビューした記事をホームページに掲載していますので、QRコードからぜひお読みいただけると嬉しいです！



それぞれの記事は、大学ホームページでもご覧いただけます。
また、各団体のSNS QRコードも載せています。
詳しい内容や試合結果、日々の様子を、ぜひチェックしてください！

さらなる研究活動の発展へ①

3つの特命研究センターを設置しました



本学は、研究レベルの一層の向上、特徴的研究の育成とその学外への発信力強化を目的として、3つの研究センターを設置いたしました。

- ・ H.I.T.航空宇宙研究センター
(センター長：船崎健一 (八戸工業大学 学長))
- ・ 炭素循環グリーン化学研究センター
(センター長：小林正樹 (工学部))
- ・ スポーツ情報科学研究センター
(センター長：伊藤智也 (工学部))



伊藤教授 小林教授 船崎学長

さらなる研究活動の発展へ②

「光学式モーションキャプチャシステム」導入



工学部工学科 (システム情報工学コース) では、最先端のモーションキャプチャシステムを導入しました。このシステムにより人の動きを正確にデジタルデータとして取得することで、幅広い分野での教育研究をサポートします。例えば、リアルなCGキャラクター表現の強化やスポーツ動作の解析、伝統舞踊・文化財のデジタルアーカイブなどに活用されます。学生が最先端の技術に触れ実践的なスキルを習得したり、教員が研究活動において新たな知見を深めたりすることが期待されます。

受賞のお知らせ

2024年度日本原子力学会 東北支部 功績賞受賞！



本学は2024年度日本原子力学会東北支部 功績賞を受賞しました。地域の原子力関連産業と密着した人材育成活動が認められての結果となります。7月2日 (水)、原子力関連のプログラムを担当している工学科 (機械工学コース) の佐藤学教授が船崎学長のもとを訪れ、今回の受賞を報告。佐藤教授はこれまでの取組みとして、六ヶ所村でのリカレント教育や「原子力産業基盤強化事業」(経済産業省) などの事例を紹介しました。



地域の皆さまへ

オープンキャンパスを 開催しました！



7月から8月にかけてオープンキャンパスを開催中です (夏の最終回は8/31(日))。多くの高校生、保護者の方々にご参加いただき、本学の魅力をお伝えしています。ホームページや大学案内だけでは分からない学びやキャンパスライフを感じられるイベントです。秋には学園祭も実施します。ぜひ一度、本学に足をお運びください！

H.I.T.
活動報告

地域とともに未来をつくる

本学における教育・研究活動や
学生の活躍などをお届けいたします。



私が八戸に来てみて感じたことの一つに、スポーツが大変盛んな地であるということを感じることが出来ます。これは青森県全体にも言える事かも知れませんが、学校保健統計調査2024年度版では、成人男子で最も高身長な県は青森県と京都府で、その平均身長は171.1cmです。成人女子では、青森県は、第4位です。

恒温動物の大きさに関するベルクマンの法則では、寒冷地（緯度の高い地方）の方が温暖地の恒温動物よりも一般的に大きいとされており、その影響もあってか青森県人は体格に恵まれているのでしょうか、スポーツ全般が盛んでかつ強豪県になっているように思えます。

八戸工業大学の学生達は青春の貴重な時間を賭してそれぞれの競技での高みを目指して頑張っています（勿論勉学にも励んでいます）。硬式野球部の北東北大学野球2部春季リーグ戦を観戦する機会がありました。対戦相手は34年間勤務した岩手大学でした。岩手大学はもとより1部リーグの強豪校ということもあり、当日は敗戦となりましたが、それでも球音鳴り響く野球場にいただけですがすがしい気分になり、大学スポーツの醍醐味を感じ取ることができました。今後、山下繁昌新監督の指導の下、さらにチームが強くなっていくことを期待しています。また、野球以外の競技の観戦も楽しみです。



ところで、成人男性で最も高身長な国はオランダであり、平均身長は185cm程度だそうです。実は200年程前はアメリカ人とオランダ人の成人男性の身長はほぼ同じくらいだったそうですが、その後平均身長で20cm以上も差がついたことになります。その理由としては、移民間の交雑の程度の違いとともに、オランダ人の高身長夫婦の高出生率が影響しているという話を聞いたことがあります。ほんの僅かな出生率の違いでも生まれる子供の数に差があると、代を重ねるごとに大きな違いとなってくるのでしょうか。

日本は急激に出生率が下がっていることから、人口は200年もかからずあっという間に江戸時代のレベルにまで下がってしまいます。イーロンマスク氏は、日本は近いうちに滅びるとの予言をしたそうですが、その予言が外れるようにするためにも、まずは東京一極集中の状況打破が必要であり、地方での生活が一層豊かで安全安心なものにする取り組みが重要です。そのような地域社会の実現にむけて八戸工業大学もさらに努力を重ねて参ります。今後ともご期待ください。



学長通信、
全文はHPにて！

編集後記

今号では、課外活動にフューチャーし学生の活躍を紹介しました。すべてを載せきれず残念ですが、次号以降も掲載していく予定です。

学生は学業のほか、課外活動やアルバイト、ボランティアなどさまざまな経験を積んでいます。キャンパスの外でこそ得られる学びがあり、それが学生生活、そして社会人になってからも活きるのだと思います。私たち教職員の役割は、人の成長に向けたサポートであると思うと、改めてその責任を痛感します。一人ひとりの飛躍のフィールドである八戸工業大学は、今後も皆さんの目に留まる活動を発信していきます。（大学広報・入試広報チーム）

HP・SNSでも情報発信中！



 **八戸工業大学**
Hachinohe Institute of Technology

工学部 工学科
感性デザイン学部 感性デザイン学科
大学院 工学研究科